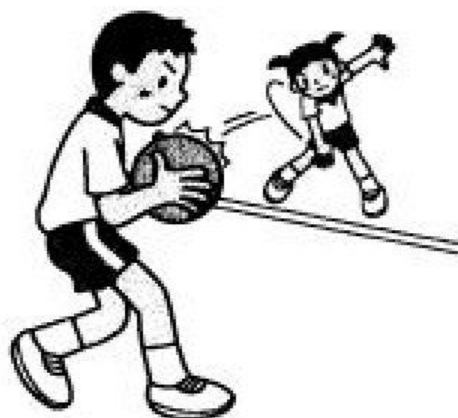


九条小学区少年少女球技大会

ドッジボール ルールブック

令和4年改訂版



九条小学校父母教師会・校外指導部

【チームの登録】※詳細は実施要項第9項（参加要項）を参照願います。

★チーム登録は下記のように定める。

(1) 原則として1チームは10名以上とする（男女混合）。

【チーム編成】※詳細は実施要項第9項（参加要項）を参照願います。

★チーム編成は下記のように定め、これらがベンチ入りの資格を有する。

(1) 正選手10名、残りは控え選手とし、主将を置く。

(2) 監督1名・コーチ2名以内とする。

【用具】

★選手関係の用具については下記のように定める。

(1) ゼッケンを着用する。

(2) スパイクシューズやアクセサリ類の使用を禁止する。

(3) 滑り止めスプレーや滑り止めグローブの使用を禁止する。

(4) 靴底が黒いものやスリッパは、アリーナに跡や傷がついてしまうため、子供・大人ともに使用しない。靴底が白またはアメ色の体育館用の運動靴を履くこと。

ただし、屋外で開催する場合は適用しない。

【試合形式】※詳細は実施要項第11項（試合方法）を参照願います。

★試合は原則として内野8人・外野2人で行い、アウトになった選手は退場する。

(ゼッケン番号ー内野1～8・外野9～10)

★試合は時間制（1セット5分）とし、セット間に3分以内の休憩を設ける。

★試合時間は基本的に流して行う。ただし、他コートのボールが入った場合や主審が必要と判断した場合（けが等）は時計を止める。

★試合前に当該コート責任者及び主審の立会いのもと、主将同士のジャンケンを行い、勝利した主将がボール権またはコート権を選択する。ジャンケンに勝利した主将がボール権を選択した場合、コート選択権は敗北した主将が有することとする。

★試合中はコートチェンジを行わない。

★2勝→そのチームの勝ち

★1勝1分→1勝したチームの勝ち

★1勝1敗または2分け→3セット目へ

★3セット終了時点でも勝敗が決まらないときは、監督同士のジャンケン（1回勝負）で勝敗を決める。

★制限時間内に全員がアウトになった場合、その時点でセット終了とする。

★選手交代はセット間のときだけ行うことができる。

★決勝戦のみ3セットマッチとする。

★（決勝のみ）2勝→2勝したチームの優勝

★（決勝のみ）1勝2分け→1勝したチームの優勝

★（決勝のみ）1勝1負1分けまたは3分け→両チーム優勝

【ジャンプボール】※【試合形式】参照

★ジャンプボールは行わない（感染対策のため）。試合前の主将同士のジャンケンにより、ボール権を決める。2セット目、3セット目は交互にボール権を得ることとする。

【ボールチェンジ】

★ボールチェンジについては下記のように定める。

- (1) ボールチェンジの指示は主審が行う。
- (2) ボールチェンジを行うのは副審とする。
- (3) ボールがプレイヤーズゾーンの外に出たとき、ボールチェンジをする。
- (4) 試合進行を著しく遅らせると主審が判断したとき、ボールチェンジをする。
- (5) ボールチェンジが行われた場合のプレー再開は、定められたボールの支配権がある内野から主審の合図（ホイッスル）により行われる。

【抗議・アピール】

★試合中、監督・コーチには「抗議・アピール」する権利が無い。

★アピールについては下記のように定める。

- (1) プレーしているプレイヤーに限り、審判員に対しアピールできる。
- (2) (1) の場合も主審が下した判定には速やかに従いプレーに戻らなければならない。

【攻撃とアウト・セーフ】

★故意に顔面や頭部をねらって攻撃（アタック）してはならないことを厳守する。

★アウトについては下記の場合と定める。

- (1) 相手の内野・外野の投球したノーバウンドのボールをキャッチできなかつたり、当てられたりした場合アウトとなる。
- (2) (1) の場合、ユニフォームなどにかすった場合もアウトとなる。
- (3) 相手の内野・外野の投球したノーバウンドのボールが2名以上続けて当てられた場合は、最初に当てられたプレイヤーのみアウトとなる。

※アウトになったプレイヤーは、手を挙げて自己申告するように指導してください。

特にかすったような際どいプレーの場合は、フェアプレー精神で自己申告するように指導しておいてください。

※審判員はかすったような際どい場合は選手に確認するようにしてください。

★セーフについては下記の場合と定める。

- (1) 相手の投球したボールが顔面・頭部に当たった場合はセーフとなる。
※ その場合、試合を止め顔面・頭部に当たったチームの内野ボールとなります。
- (2) 相手の投球したボールが内野のプレイヤーに当たり、そのボールが空中にある間に、味方の内野及び外野のプレイヤーがノーバウンドでキャッチ（アシストキャッチ）した場合はセーフとなる。
- (3) 相手が投球したとき、その相手にファールがあった場合当てられてもセーフとなる。

【内野同士・外野同士のパスの禁止】

★下記のパスを禁止する。

- (1) 味方の内野同士のパスを禁止する。
- (2) 味方の外野同士のパスを禁止する。
- (3) (1) (2) のファールがあった場合、ボールの支配権は相手の内野に移る。

※ボールをキャッチしたり拾ったりしたプレイヤーは、責任をもってそのプレイヤー自身が投球（パスやアタック）をするという原則に基づいたものです。

【インプレーゾーンとボールの支配権】

★インプレーゾーンにボールがあるときの支配権を下記のように定める。

- (1) アタックやパス以外のボールをルーズボールと呼び、その支配権はプレイヤーが拾った時点でそのプレイヤーに支配権が発生する。
- (2) アタックやパス（バウンドしたしなないに拘わらず）をプレイヤーがキャッチした時点で、そのプレイヤーに支配権が発生する。

【ボールデッドとボールの支配権】

★ボールデッドについては下記のように定める。

- (1) ボールデッドとはボールがデッドゾーンに出ることをいう。
- (2) (1) の場合、ボールデッドゾーンに出るといのは、ボールがゾーンに触れた状態（転がる・バウンドする）のことで、空中にあるうちはその限りでない。

★ボールデッド後のボールの支配権を下記のように定める。

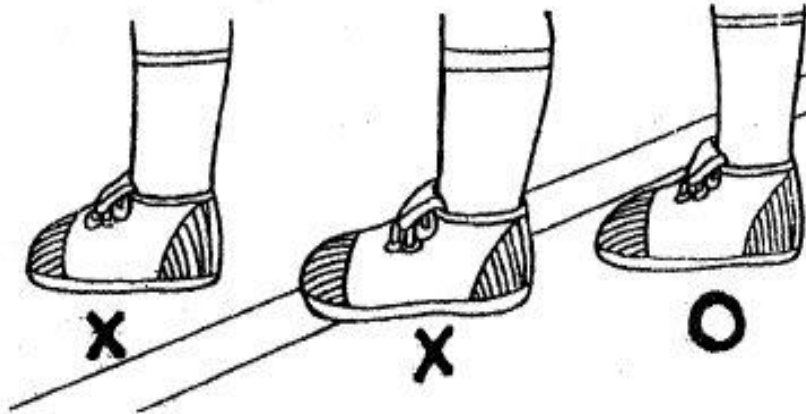
- (1) 最後にボールに触れたプレイヤーが内野の場合ボールの支配権は相手の内野に移る。
- (2) (1) の場合、自ら投球したボール（アタックやパス）を含む。
- (3) 外野プレイヤーが投球したボール（アタックやパス）がそのままボールデッドになった場合、ボールの支配権は相手の内野に移る。

★インプレーゾーンで、審判員にボールが当たってボールの軌道が変わった場合は、そのままボールのあるチームの内野及び外野にボールの支配権が発生する。

【ファールとボールの支配権】

★投球時のラインクロス

- (1) 投球したとき、軸足・蹴り足・身体の一部に拘わらず、ラインを踏んだり踏み越えたりしてはならない。
- (2) ラインクロスをして相手をアウトにしても、そのアウトは取り消される。
- (3) このファールがあった場合、ボールの支配権は相手の内野に移る。



★捕球時のラインクロス

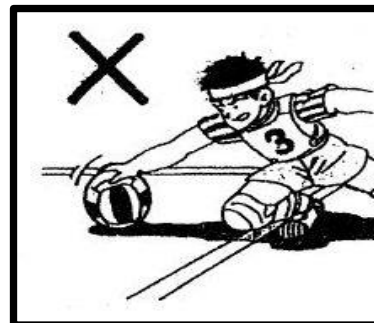
- (1) 捕球したとき、足や身体の一部がラインを踏んだり踏み越えたりしてはならない。
- (2) このファールがあった場合、ボールの支配権は相手の内野に移る。

※投球者がラインクロスをして、そのボールを相手チームのプレイヤーがキャッチした場合、試合進行に影響がない場合に限りそのままプレーを続行することがあります。しかし、何度も繰り返すようであれば「注意」の対象となります。

※投球及び捕球後にバランスを崩すなどして多少の時間のずれが生じた後にラインを越えた場合もファールとなります。

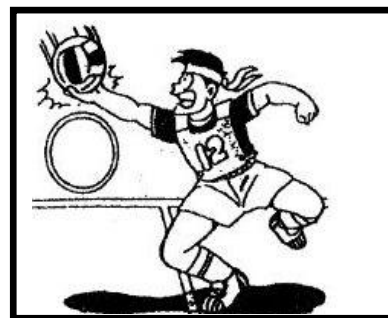
★ホールディング

- (1) 相手の内野エリア及び外野エリアに転がっているボール（ルーズボール）を、ラインを越えて手や足などで引き寄せてはならない。
- (2) このファールがあった場合、ボールの支配権はそのボールのあった内野及び外野に移る。



下記の場合ホールディングとならず、それぞれの支配権は次のとおりとする。

- (1) ノーバウンド・バウンドに拘わらず、ボールが空中にある場合、ラインクロスをおかさないかぎり、キャッチしたプレイヤーに支配権が発生する。
- (2) サイドラインやバックラインを挟んで、空中にあるボールを内野プレイヤーと外野プレイヤーが同時にキャッチした場合、そのボールの支配権は内野に発生する。
- (3) センターラインを挟んで、空中にあるボールを対戦している内野プレイヤー同士が同時にキャッチした場合、主将同士のジャンケンで、ボールの支配権を決める。



★5アタックルール

- (1) 同一チーム内のパスの回数は連続4回までとし、5回目の投球は必ずアタックでなければならない。
- (2) 連続で5回のパスを行うとその時点でファール（ファイブパス）となり、ボールの支配権は相手の内野に移る。

※アタックとは、投げたボールが相手のプレイヤーが自然体で立ったときの

- ① 肩の線より低く
- ② 両腕を広げた範囲内をボールが通過したときにアタックと認められます。

【試合進行例】 …基本的な試合進行は次のとおりとします。

★試合準備

- ①監督はメンバー表を主審に提出する。
- ②主審立ち会いのもと主将同士でジャンケンを行い、ボールまたはコート権を選択する。
- ③審判員はコートのチェックを行う。

★試合開始

- ①主審の集合合図により、審判員全員と両チームのプレイヤー全員がセンターサークルを挟んで整列する。
- ②プレイヤーは主審から諸注意を受ける。
- ③審判員・両チームプレイヤーはお互いにあいさつを交わす（感染対策のため、声は出さない）。
- ④控えのプレイヤーはベンチに戻り、スターティングメンバーは主審の指示に従い、ゼッケン順に記録席に背中を向けて整列する。（この整列はセットごとに行う。）
- ⑤主審は記録員からプレイヤーの確認終了の連絡を受けてからプレイヤーを所定の位置（内外野）につけ、記録員に試合開始を伝える。「では試合を開始します。」
- ⑥プレイヤーが主審からボールを捕球した時点で、コート責任者がストップウォッチをスタートさせる。

★セット終了

- ①規定の時間が来たら記録員が主審にタイムアップを知らせ、主審の笛が鳴り始めた時点で終了となる。（笛が鳴り始めた以後のプレーはすべて無効となる。）
- ②主審は、タイムアップになったらプレイヤーをその場に座らせ、それぞれの内野プレイヤーの数を確認しセットの勝敗を報告する。
- ③両チームのプレイヤーは主審の指示でそれぞれのベンチに戻り、休憩、作戦タイム消毒作業を行う。

★試合終了

- ①最終セット終了後、試合開始時と同様に整列し、勝敗結果を主審から受ける。
- ②審判員・両チームのプレイヤー全員はあいさつを交わす（感染対策のため、声は出さない）。その後速やかにベンチから退席する。※相手ベンチへのあいさつはなし。
- ④主審とコート責任者は、記録用紙の記載内容に間違いがないか確認の上署名する。
- ⑤コート責任者は、本部に結果報告し、記録用紙を提出する。

※ 附 則

【ファールとボールの支配権】—— P5

- アウトになったプレイヤーが再びそのボールに触れた場合、ボールの支配権は相手の内野に移る。
- ボールを支配（保持）したプレイヤーが5秒間以内に投球しなかった場合、ボールの支配権は相手の内野に移る。
- 顔面（頭部）にボールが当たった場合、主審はいったんゲームを止める。その後、アタックされた側の内野ボールでゲームを再開する。

【顔面にボールが当たり、すぐに試合に復帰できない場合】

- 顔面にボールが当たり、すぐにゲームに復帰できないと主審が判断した場合、1分間程度のオフィシャルタイムアウトを取って、その選手の回復を待つことができる。その間、試合時間は停止させる。
- オフィシャルタイムアウトの時間内で、そのプレイヤーがゲームに復帰できない場合は、チームの監督が主審に申し出て、主審がそのプレイヤーのアウトを宣告する。
- この条項は、プレイヤーの負傷（治療、応急処置等）の場合にも適用する。

【主審の合図の前にプレーが行なわれた場合】—— P2

- 低学年の試合においては何度もやり直しとするが、高学年の試合においては、当該チームに1回注意しやり直しをさせ、2回目以降は相手チームの内野にボールの支配権が移る。

【アタックから逃れる為に内野手が自陣コートから出た場合】

- 明らかに標的にされたプレイヤーが、アウトを逃れる為に自陣コートから出てしまった場合、その当該プレイヤーはアウトとなる。但し、低学年の試合においては集団で逃げ回る場合が多く、はずみで出てしまったと主審が判断した場合には適用しない。

